【目的】高品質出荷のための乾燥方法を明らかにする。

(平成29年度指導参考資料)

【結果】昼間は35℃、夜間は20~24℃で通風する′間断加温乾燥′により

長期貯蔵後でも高い品質を維持できた。また、乾燥を失敗しな

いための「乾燥チェックリスト」を作成し、インターネット上に公開した。

※間断加温乾燥はテンパリング乾燥とも呼ばれる。

貯蔵障害発生りん片

(35℃連続乾燥、ツヤ減退、くぼみ・変色発生)

◆ニンニクの品質向上

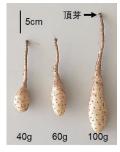
### ○主な研究成果

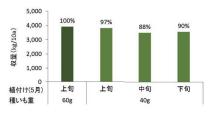
#### ◆ナガイモの種いもの有効活用

【目的】早植え栽培において、標準(50~100g)より小さい種いもの 利用方法を明らかにする。

【結果】50g未満(35~45g)の種いもでも、頂芽付きで5月上旬に 植付けることにより利用可能であった。

(平成31年度指導参考資料)





ナガイモの種いも

# 植付け時期別の収量性(H29~30年平均) 正常りん片 (昼35℃~夜間常温の間断加温乾燥)

## ◆ナガイモ種子用むかごの増収技術

【目的】反射シート設置や催芽処理によりナガイモ種子用むかごの 増収を図る。

【結果】むかごの総収量は反射シート被覆や催芽処理により5割 以上増加した。

(平成31年度指導参考資料)

## ◆冬春播きタマネギ栽培に適する品種

【目的】本県における冬春播きタマネギ栽培に適する品種を 選定する。

【結果】7月下旬~8月中旬までに収穫できる4品種を選定した。 (平成31年度指導参考資料)





「マルソー」

「オーロラ」

タマネギの品種



通路への反射シート設置



催芽処理による生育の違い (左:無処理区、右:催芽区)

## ◆ニンニクの安全・安心な病害虫防除方法

【目的】ニンニクへのイモグサレセンチュウの侵入状況を把握して、 被害軽減できる収穫時期を判定する。

【結果】葉鞘の何枚目まで侵入しているか確認する方法を開発した。 【今後】センチュウ被害を減らせる収穫時期の判定法を開発する。







染色された葉鞘の中の イモグサレセンチュウ

#### ◆ダイコンのキスジノミハムシ防除対策

【目的】キスジノミハムシの効果的防除体系を確立する。 【結果】粒剤と散布剤を組み合わせた効果的な防除体系を確立した。 (平成30年度指導参考資料)



キスジノミハムシ成虫



ダイコン根部の被害